



平成29年6月14日

記者説明会（6月20日13時30分・広島）のご案内

ロボット治療機器を中国地方で初めて導入  
～高齢社会に向け臨床研究にも活用～

広島大学病院では今年4月から中国地方で初めて、ロボット治療機器「HAL<sup>®</sup>医療用下肢タイプ」（以下、「HAL<sup>®</sup>医療用」）を導入しました。「HAL<sup>®</sup>医療用」は筋委縮性側索硬化症（ALS）や筋ジストロフィーなどの神経・筋疾患患者さんを対象にしたロボット治療機器です。2016年4月、ロボット治療として初めて保険が適用され、本院でも今年4月から保険適用による治療が始まりました。

本院では、患者さんの体調・状態に合わせて1回30分～1時間程度、週2～3回治療を行っています。期間は1クール9回です。

これまでに2人の患者さんに使用しましたが、1クール終了時点での評価では、歩行速度、応用歩行能力、歩行時の持久力の向上などが確認されています。患者さんからは、「姿勢が良くなった」「疲れにくくなった」などの感想をいただいています。今後は、保険診療対象疾患以外の疾患に対する効果や下肢切断術後の歩行練習に関する臨床研究などに活用していきたいと考えております。

歩行は人にとって最も基本的な活動の一つであり、日常生活には欠かせません。歩行によって、人は肉体的・精神的な健康を保つことができ、生活の質を高めることができます。歩行機能の維持・回復を目指すリハビリテーションは、本人だけでなく、社会にとっても有益なものです。人の歩行を支援する取り組みは高齢社会を迎えた今、医療・介護・福祉などすべての場面において、ますます需要が高まるものと考えられます。

つきましては下記のとおり、記者説明会を開催し、ロボット治療機器「HAL<sup>®</sup>医療用下肢タイプ」についてご説明しますので、ご出席いただきますようご案内申し上げます。

記

日時：平成29年6月20日（火）13時30分～14時30分

場所：広島大学病院 臨床管理棟3階 3F1会議室

出席者：広島大学病院 リハビリテーション科 教授 木村浩彰

理学療法士 坂光 徹彦

以上

\*ロボット治療機器「HAL<sup>®</sup>医療用下肢タイプ」とは

このロボット治療機器は、身体に装着することによって装着者の身体運動を支援し、歩行機能を改善させる医療機器です。国内臨床試験を経て有効性・安全性が確認され、「生体信号反応式運動機能改善装置」として承認されました。

装着者が筋肉を動かそうとした時、脳から脊髄～運動ニューロンを介して筋肉に神経信号が伝わり、筋骨格系が動作します。この時、微弱なBES（生体電位信号）が皮膚表面に現れます。本品は、機器に内蔵された角度センサ、足底荷重センサ、体幹絶対角度センサから得られた情報と、装着者の皮膚表面に貼り付けられた電極を通して得られた生体電位信号の情報とを用いて支援動作を決定し、状態に応じて各関節に配置されたパワーユニットを駆動させることで、装着者の下肢関節動作をアシストします。



ロボット治療機器「HAL®医療用下肢タイプ」(前・後ろ)



皮膚表面に電極を装着



歩行訓練

【本件に関するお問い合わせ】

広島大学病院 リハビリテーション科  
理学療法士 坂光 徹彦  
TEL 082-257-5566 fax 082-257-5594

【本件報道に関するお問い合わせ】

広島大学病院  
特命広報・調査担当役 菅川（すげかわ）幹人  
TEL 082-257-5418 fax 082-257-5087

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学財務・総務室 広報部広報グループ 行

記者説明会

ロボット治療機器を中国地方で初めて導入  
～高齢社会に向け臨床研究にも活用～

日時：平成29年6月20日（火）13時30分～14時30分

場所：広島大学病院 臨床管理棟3階 3F1会議室

出席者：広島大学病院 リハビリテーション科 教授 木村浩彰

理学療法士 坂光 徹彦

ご出席

ご欠席

貴社名 \_\_\_\_\_

部署名 \_\_\_\_\_

ご芳名 \_\_\_\_\_ (計名)

電話番号 \_\_\_\_\_

誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、6月19日（月）12:00までにご連絡願います。

